



ビンゴ大会



体育館ステージ



屋内イベント



屋外ステージ



模擬店



第32回

紅翔祭

10月4・5日

パンフレット

を振るっていることから、無事開催できるか心配でしたが、感染症対策と並行して多くの方からサポートをもらい、1,800人を超える方にご来場いただき、無事に終わることができました。

2年ぶりに学食販売会を行い、2日間で500食を超え

る盛況ぶりでした。また、昨年に引き続きゲストを招いたイベントを開催、お笑い芸人3組にご出演いただき、大変にぎやかな紅翔祭になりました。

今回の紅翔祭が大学と卒業生や地域の方々との交流の懸け橋となっていたら、とてもうれしく感じます。来年度以降も今回以上に盛り上がるイベントになることを願っています。協力してくださった実行委員や教職員の方々、来場者の皆様に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

紅翔祭実行委員長 情報システム学科 2年 井上 結翔

CONTENTS

2面
インターンシップ

3面
在外研修報告
日本語・日本文化研修プログラム
新任教員紹介

2・3面
教員の活動
4面
高大連携事業
巻高生と夏季特別
セミナーで交流

地域連携事業
漏結びプロジェクト
西翔プロジェクト
県高校生英語スピーチコンテスト



NUISホームページ
https://www.nuis.ac.jp
(スマートフォン対応)



Facebookページ
https://www.facebook.com/nuis.face



Instagram



X(旧 Twitter)
@nuis_nabbit



YouTube
公式
チャンネル

新潟県東京事務所

私は9月1日から5日間、新潟県東京事務所でのインターンシップに参加しました。インターンシップでは、関係省庁との情報交換やSNS発信、県のアンテナショップを活用したイベント企画などの調査・広報に関する業務



研修施設の紹介を受ける筆者(右端)

インターンシップに参加して

私は8月25日から5日間、JA新潟かがやきでのインターンシップに参加しました。初日から2日間は信用事業や共済事業を座学やワークを通して学び、JAが地域や農家の金融、そして「安心」を支える役割を持つことを知りました。3日目は選果ラインや圃場で生産から流通

までを体感し、4、5日目は西

区の直売所「い

っぺこ」とで販売を体験して、生産者と消費者をつ

ながく仕組みと魅力を学びました。なかでも、職員の方々が「利用者からの感謝」や「農家の利益向上」をや

JA新潟かがやき

と、本県ゆかりの企業との信頼関係の構築や本県への拠点開設に関心を寄せる企業へのアプローチなどを行う、誘致に関する業務を体験しました。このインターンシップを通じて、人対人がつくり上げる信頼関係の重要性を改めて学びました。本県の魅力をど

対話が生む「信頼関係」を学ぶ

国際文化学科3年 相馬 香菜

のように首都圏の人々に発信していくか考える業務が多く、期間中もさまざまな場所にうかがう機会がありました。県民ニーズ実現に向けた本県国会議員との連絡調整や、本県のPRイベント

ト、本県にゆかりのある方々との交流会を開くことによる魅力発信手段の拡大、コワーキングスペースでのイベントを活用して誘致につながる活動などを体験させていただき、対面で会話する機会が多かったことが特に印象的で、信頼構築に欠かせないことだと感じました。

対人での業務が多い東京事務所は、自分の構築した信頼関係の一つ一つが本県の未来をつくり上げる要素になると強く実感できる場でした。今回得た経験と学びを大切に、今後の就職活動のみならずさまざまな場面で生かしていきたいと考えています。

誰かのために「働く喜び」実感

経営学科3年 太田 澄佳

りがいと語る朗らかな姿からは、この組織が人々の繋がりを大切にし、支え合いを支えている場なのだと感じました。自分ではない誰かのために一生懸命に働く職員の方々の姿は、強く印象に残っています。

私は人前で話すことが得意ではな

く、失敗への恐れから人との関わりを避けてしまう傾向がありました。しかし人を支えることに誇りを持ち、責任感をもって業務に取り組む職員の方々の姿勢に感化され、私自身も積極的に地域の方々と交流することができまし



試食販売を行う様子

藤瀬 武彦(経営学科・教授)

・(2025年8月27日～9月29日)「一般中高年者及び中高年パワーリフターの身体的特性の比較」日本体育・スポーツ・健康学会第75回大会(日本体育大学・世田谷キャンパス)

藤田 美幸(経営学科・教授)

・(2025年7月12日・13日)「ラムサール条約湿地都市認証が地域愛着度と地域ブランディングに与える影響-新潟市を事例とした若年層の意識調査から-」日本情報経営学会 第88回全国大会(関西大学・千里山キャンパス)
・(2025年7月12日・13日)使用原材料の選択と加工方法が商品イメージ及び企業イメージに与える影響-株式会社加島屋の事例(岡野康弘、澤口楓香、藤田美幸)日本情報経営学会 第88回全国大会(関西大学・千里山キャンパス)

ジュリアス・マルティネス(国際文化学科・契約准教授)

・(2025年4月26日・27日)"Ang Pagkitil ng Multilinggwalismo sa Pilipinas." Annual Graduate School Research Colloquium (Sorsogon State University in Philippines)
・(2025年5月7日)"Research Dissemination for Public Information," Research TALKS (De La Salle University Manila in Philippines)

3)競争的資金獲得研究

藤田 美幸(経営学科・教授)

・(2025年7月より新規～2026年3月)令和7年度 地域と大学連携事業(新潟市西区)「西翔プロジェクト」藤田美幸研究ゼミナール(高見亮太、白倉晃、鈴木翔太、皆方海音、森田創)
・(2025年7月より新規～2026年3月)令和7年度 地域と大学連携事業(新潟市西区)「潟結びプロジェクト」藤田美幸研究ゼミナール(岩島力、渡邊星南、大泉英、笹川颯太)

4)委員・社会的活動・記事・その他

内田 亨(経営学科・教授)

・(2025年6月5日より継続～2026年6月4日)新潟県生産性本部常任理事

小宮山 智志(経営学科・准教授)

・(2025年5月21日より継続～2026年3月31日)中野小屋中学校学校評議員
・(2025年5月27日より継続～2026年3月31日)赤塚小学校学校評議員
・(2025年7月15日より継続～2026年3月31日)白根高等学校学校評議員

・(2025年7月24日より新規)新潟市まちづくりパートナーシップ事業審査委員(新潟市役所)
・(2025年7月29日より継続～2026年3月31日)新潟市総合計画2030有識者会議(都市の活力向上部会) 部会長(新潟市役所)
・(2025年8月28日より新規～2026年3月31日)新潟市共同募金委員会西区分会推進委員(新潟市役所)

謝 凱雯(経営学科・教授)

・(2025年7月4日～11日)富士通フロンテックの企業内研修において、外部講師としてフィリピンからの研修員に日本事情の講義を担当した。(新潟工場)

藤瀬 武彦(経営学科・教授)

・(2025年9月5日～7日)第47回北日本学生陸上競技対校選手権大会 副会長(札幌市・円山陸上競技場)

藤田 美幸(経営学科・教授)

・(2025年7月26日)千灯まつり：国道8連おむすびプロジェクト出展(新潟市)
・(2025年9月1日より新規)地域活性化学会 第9期 理事
・(2025年9月11日～14日)応用生態工学会 第28回新潟大会 実行委員会 委員(新潟大学、朱鷺メッセ)

山田 裕史(国際文化学科・教授)

・(2025年6月17日)「時事速報」(時事通信社)「犯罪組織、政界上層部と癒着疑惑：日本人29人拘束のカンボジア・ポイベト」にコメント掲載
・(2025年7月21日)「日本経済新聞」「追い込まれるタクシン氏、盟友切ったフン・セン氏の『危険な賭け』」にコメント掲載
・(2025年7月12日)Nikkei Asia「Hun Sen's gamble: Why Cambodia ex-ruler turned on Thai ally Thaksin」にコメント掲載
・(2025年7月29日)「新潟日報」「日本の選挙制度から民主主義を学ぶ：カンボジアの上院議員らが新潟市で参院選の投票所や選挙運動を視察」にコメント掲載
・(2025年8月21日)「中日新聞」「国境の詐欺、カンボジアとタイ衝突の火種に 日本人容疑者29人逮捕は氷山の一角」および「東京新聞」「タイ『隣国カンボジアは詐欺のホットスポット』…国境越えの取り締まり、闇の利権に触れ軍事衝突を招いた？」にコメント掲載
・(2025年8月21日)テレビ朝日「大下容子ワイド!スクランブル」「カンボジア拠点詐欺 邦人29人逮捕 詐欺が『一大産業?』の現状」のニュース解説
・(2025年9月10日)「日本大百科全書(ニッポニカ)」小学館「フン・セン」の項目を執筆
・(2025年9月11日)「産経新聞」「AIでの監視、ネット検閲…中国、IT技術駆使した『独裁統治モデル』をアジアに輸出：吞まれるアジア 中国『支援』の実像③」にコメント掲載

新任教員紹介



奥原 浩之 おくはら こうじ

情報システム学科 教授

担当科目 知識情報、情報論理、人工知能、
情報システム応用演習2、
卒業研究2

研究分野 数理情報、データサイエンス、OR

- 1996年 3月 広島大学大学院工学研究科システム工学専攻
博士課程後期修了 博士(工学)
- 1996年 4月 広島大学工学部第二類(電気系) 助手
- 1998年10月 広島県立大学経営学部経営情報学科 講師
- 2006年 4月 大阪大学大学院情報科学研究科情報数理学
専攻 助教授
- 2017年 4月 富山県立大学工学部電子・情報工学科 教授

在外研修報告

期に戦争避難民として疎開し、戦後に疎開地でコミュニティを再建してきた村人たちにインタビュー調査を行いました。彼らの戦争体験についても聞く機会を得たのですが、その中で印象に残ったのは、「避難中に年老いて目が見えなくなった母親を、わずかな食糧を渡して置き去りにせざるを得なかったんだ」と

2024年9月から1年間、東南アジアのラオスに赴任し、ラオス国立大学の研究員として、ラオス内戦から影響を受けたコミュニティの社会変容と地方行政の変化について研究する機会に恵まれました。

ラオスでの長期滞在は3回目ですが、今回は、ラオス内戦が終結して現体制が樹立されてから50周年を迎える節目でもあり、ラオスの現在の社会変化についても体感する機会になりました。

地域再興への願い

語り継ぐ必要性を痛感

いった記憶や、かつて兵士だった村人が、戦後にまだ地方の治安が安定していない中で退役を決めた理由について、「各地を転々として活動したが、もう銃の音を聞くことにもうんざりしたんだ」という心からの声でした。そして、別際に「今の(ラオスの)若者たちは、このような話に興味がないんだ。今日は、本当によく来てくれた」と笑顔で見送ってくれたことでした。

日本語・日本文化研修プログラム

本学はこの夏、開学以来初めてとなる日本語研修プログラムのインバウンド受け入れを実現しました。韓国・忠清北道にある世明大学から10名の学生を迎え、「日本語・日本文化研修プログラム」を



弥彦神社での集合写真

6月30日から3週間、わたり実施しました。この取り組みは、新組みは、新潟県国際観光推進課と光局(JNTO)が推進する訪日教育旅行事業の一環であり、県国際交流推進

韓国・世明大学の学生迎えて実施

特に注目されたのは、本学の学生が授業アシスタントとして自ら企画した点です。学生主体の取り組みにより、国境を越えた友情と学びの輪が大きく広がりました。プログラムに参加した国際文化学科3年村田かのかさんは「授業アシスタントとして韓国の留学生と活動し、かけがえのない友人を得ることができました。最初は不安もありましたが、皆さんの明るさや日本語の上手さに助けられ、授業外でも食事やカラオケを楽しむなど充実した3週間を過ごせました。この経験は一生の宝物です。」と話していました。

基金の補助を受けています。観光インバウンドの促進、異文化理解、国際親善を目的に、留学生たちは日本語の授業や地域での体験活動に加え、本学の学生たちとの学内外での交流活動にも積極的に参加しました。

准教授 瀬戸裕之



インタビュー中の筆者

教員の活動 (本人申告による)

1) 研究論文・図書

今井 裕紀(経営学科・講師)

- ・(2025年7月) ブンネンタック、S.著/今井裕紀訳「第7章 職務ストレス カラセックの職務要求 — 職務コントロール研究・再入門」『組織心理学・再入門 ブレックスルーを生んだ14の研究』新曜社 (133~151頁)

梅原 英一(情報システム学科・教授)

- ・(2025年7月) 細川 進「新聞と掲示板データを用いた日経平均VI予測モデルの提案と評価」『人工知能学会論文誌』人工知能学会 第40巻 第4号 (1~14頁)

木村 誠(経営学科・教授)

- ・(2025年7月) 『AIプラットフォーム企業のデータネットワーク効果 — データの規模と範囲・持続可能性』中央経済社 (221頁)

近山 英輔(情報システム学科・教授)

- ・(2025年7月) "Prototype of Point Cloud-Captioning Model for Jomon Pottery," Proceedings of the International Conference on Smart Cities - Volume 2. ICSC 2024 LNEE vol 1417 Springer, Singapore. (84-92)

ジュリアス・マルティネス(国際文化学科・契約准教授)

- ・(2025年7月) The Routledge Handbook of English Language Education in the Philippines (edited by Julius C. Martinez and Isabel Pefianco Martin) Routledge
- ・(2025年8月) "Killing Multilingualism in the Philippines," Journal of Education, Language and Ideology, Vol.3, No.1 (103-129)
- ・(2025年8月) "Pushing Back: Resistance Practices of Filipino English Teachers in Japan," Trans-speakerism: A Collection of Empirical Explorations (edited by Takaaki Hiratsuka) Routledge (129-145)
- ・(2025年8月) "Philippine English," The Wiley Blackwell Encyclopedia of World Englishes (edited by Kingsley Bolton) Wiley Blackwell (1-12)
- ・(2025年8月) "Philippine English in migration and mobility: Beyond internal differentiation," World Englishes in the 21st Century: New Perspectives and Challenges to the Dynamic Model (edited by Sofia Rüdiger, Theresa Neumaier, Sven Leuckert and Sarah Buschfeld) Edinburgh University Press (263-284)

山田 裕史(国際文化学科・教授)

- ・(2025年5月) 藤田麻衣氏との共著「フン・センを頂点とする一族支配の確立: 2024年のカンボジア」『アジア動向年報 2025』日本貿易振興機構アジア経済研究所 (223~242頁)

2) 学会・研究会・講演等

井堂 有子(国際文化学科・教授)

- ・(2025年6月21日) 企画セッション総括・司会「中東・北アフリカにおける包摂的開発と食料安全保障: エジプト・チュニジア・ヨルダンの事例から」国際開発学会第26回春季大会 (北海道大学)

今井 裕紀(経営学科・講師)

- ・(2025年9月7日) 「日本語版主観的アンダーエンプロイメント尺度の測定不変性」産業・組織心理学学会第40回大会 (九州大学)

内田 亨(経営学科・教授)

- ・(2025年9月7日) 「水産養殖事業における陸上養殖による新たな成長戦略の可能性」日本システムデザイン学会 第6回研究大会 (慶応義塾大学)
- ・(2025年9月7日) 「地方における老舗中小企業の地域戦略の促進に向けたESG経営: 香川県を事例とした理論的モデル構築に向けて」日本システムデザイン学会 第6回研究大会 (慶応義塾大学)
- ・(2025年9月7日) 「新入社員定着に向けた取組みに関する研究 — 香川県のユニコム社の事例を元に —」日本システムデザイン学会 第6回研究大会 (慶応義塾大学)

佐々木 桐子(経営学科・准教授)

- ・(2025年8月22日) 「災害復旧工事ともなう交通流の変化に関する研究:市道仙台城跡線の長期通行止めの事例」日本経営システム学会経営ネットワーク研究部会 (東北大学)

謝 凱雯(経営学科・教授)

- ・(2025年7月12日) 「愚直なモノづくり精神と社会関係資本の再構築 — 燕三条地域における世代交代を通じて —」政策文化総合研究所「東アジア市場のリープフロッグ的發展における企業戦略と制度的環境」(中央大学)
- ・(2025年8月5日) 「台湾における女性・潜在起業家育成政策の分析と日本への応用可能性」経済学部 (熊本学園大学)

高大連携事業

本学では、新潟県立巻高校との高大連携協定に基づき、8月1日に夏季特別セミナーを開催しました。本セミナーは、大学の教育資源を活用し、高校生にデータサイエンスとAIの基礎を体験的に学んでもらうことを目的としたものです。

データサイエンス・AI入門 世界理解のためのワークショップ

「入門」と題した講義が行われました。地域経済データの可視化ツール（SEES AS）やチャットボット（Gemini Flash AI）を用いた演習を通して、AI技術の基礎と応用について学びました。

第2部では、国際文化学科の佐々木寛教授が担当する「世界理解のための対話ワークショップ」が実施されました。国際交流ファシリテーター推

巻高校生と夏季特別セミナーで交流

1・2年生合わせて31名が参加し、本校みずき野キャンパスで2部構成のプログラムが実施されました。

第1部では、情報システム学科の近山英輔教授による「データサイエンス・AI

進員と大学生ファシリテーター11名も加わり、講義で使ったAIを活用しながら、世界の諸問題について考察を深めました。

高校生たちは、大学生との交流を通じ

地域連携事業

経営学科・藤田美幸ゼミナールの学生2チームが、新潟市西区の令和7年度



西区役所の職員と協議する「潟結びプロジェクト」メンバー

「地域と大学連携事業」に応募し、採択されました。

【潟結びプロジェクト】（岩島カリーダ1ほか3名）は、地域課題の調査・分析

潟結びプロジェクト／西翔プロジェクト

藤田ゼミ生の企画が西区で事業採択

を経て、佐潟エリアを舞台にした「謎解きガイドブック」の制作・販売を企画。

LINEを活用したコンテンツ開発にも取り組み、50万円の支援を受けました。

【西翔プロジェクト】（高見亮大リーダーほか4名）は、大学祭「紅翔祭」において地元飲食店との共同出店を通じて地域交流を促進。SNS発信や動画制作を通じて、西区の魅力を学生に伝え、定

住・就職意識の醸成を目指す企画で20万円の支援を獲得しました。

両チームは夏休み期間中も自主的に活動を継続。首都圏の企業とのオンライン会議、市役所での会議、地域施設や企業へのインタビューなど、主体的なフィールドワークを重ねています。

イベントは年度内に実施予定です。

本事業は、学生の創造力と地域の課題解決を結びつける貴重な機会であり、大学と地域の相互理解を深める取り組みとして今後の展開が期待されます。学生たちの主体性と協働力が光る実践的な学びの場として、地域社会とのつながりを実感する貴重な経験となっています。



ワークショップの様子

県高校生英語スピーチコンテスト

本学主催の「第11回新潟県高校生英語スピーチコンテスト」が8月31日に、本校みずき野キャンパスで開催されました。このコンテストは、英語を学ぶ若者が世界の異文化や諸問題に関する関心を高め、英語学習充実の一助となることを目的に、毎年行われるイベントです。

11回目を迎えた今回のテーマは「How to introduce Niigata to foreigners（外国人に新潟を紹介する方法）」です。県内の高等学校・中等教育学校5校から7名の生徒が参加し、約30名の聴衆が耳を傾けるなかで、ハイレベルな英語スピーチが行われました。

審査は、テーマの適切さ、発音、視線、表情、ジェスチャー、質問の理解度と回答の確さなどによる総合的な評価で行われました。

最優秀賞に下宮和空さん（開志国際高校 3年）

審査の結果、最優秀賞は開志国際高校3年の下宮和空さんが受賞しました。

コンテストは来年度も開催を予定しています。このコンテストが高校生の英語レベルの向上と、新潟県の国際化への発展につながるよう尽力していきます。

（国際交流委員長 鈴木佑也）



コンテストを終えての集合写真（前列右から2番目が下宮さん）